

歴史国道「日田往還」整備事業

受賞機関 大分県日田土木事務所

はじめに

「日田往還」とは、日田市豆田町から伏木地区までの旧国道212号で江戸時代に日田市が幕府直轄の天領として九州の政治経済の中心であった際に統括していた豊後、豊前などの6カ国を結ぶ街道の一つで、沿線には歴史的な町並みや寺社、庄屋屋敷、県指定史跡の石坂石畳道等、多くの歴史的遺産が残っている。この「日田往還」は重要な歴史的、文化的価値を有する道路として平成8年3月に全国24箇所の「歴史国道」の内の一つに認定された。当事業では、豆田地区の歴史的情緒ある景観を阻害している電線類の地中化や町並みと調和する道路環境の整備を行った。

事業概要

事業期間：平成8年度～平成12年度

延長：L = 800m

幅員：W = 5.5～7.5m

内容：電線地中化、舗装整備、側溝整備、街路灯設置



整備された歴史的な町並み

事業の特徴

当事業の工法決定にあたり、沿線住民の意見や要望を取り入れるため「歴史国道作業部会」を開催し、住民参加の整備事業となった。

事業の主な内容は次のとおりである。

・電線の地中化

景観を阻害している電線類を地中化することで、町並み景観を向上させた。

・舗装整備

歩車共存道路として自然石（天然砂利）と高粘度の脱色アスファルトを混合し、自然石の色合い



整備後の状況



日田天領祭



ができるような地道風の排水性舗装とした。

・側溝整備

道路幅員が狭いことを考慮して、側溝上部を歩行者空間の一部として取り込めるようにした。

・街路灯整備

江戸時代の町並みに調和させるように落ち着いた色と形のデザインを施した。

工事完成後、住民も道路の出来上がりに大変満足しており、また、平成12年3月にオープンしたサッポロビール新工場との相乗効果で観光客も増加しており、今後も日田の観光の中核として発展していくことが期待される。

受賞賛助会員 日本舗道㈱大分営業所